

令和元年度滋賀県・長浜市原子力防災訓練 結果概要

令和元年 11 月 17 日（日）に、関西電力(株)美浜発電所を対象に、滋賀県と長浜市が共同で原子力防災訓練を実施した。

1 目 的

- (1) 屋内退避、一時移転、スクリーニングおよび原子力災害医療に係る手順の確認と検証
- (2) 県、関係市および防災関係機関の原子力災害対策に係る能力の向上
- (3) 地域住民の原子力災害対策に係る意識・理解の向上

2 実施日時

令和元年 11 月 17 日（日） 7 時から正午まで

3 主 催

滋賀県・長浜市

4 参加人数および参加・協力機関等

- (1) 参加人数
18 機関 533 人(住民 236 人 防災業務関係者 297 人)
- (2) 参加車両数等 車両 18 台
- (3) 参加・協力機関

内閣府、原子力規制庁、陸上自衛隊第 3 戦車大隊、航空自衛隊第 12 高射隊、自衛隊滋賀地方協力本部、湖北地域消防本部、(公社)滋賀県放射線技師会、長浜赤十字病院、大津赤十字病院、滋賀医科大学医学部附属病院、長浜市立長浜病院、長浜市立湖北病院、(一社)滋賀県バス協会、(一社)滋賀県トラック協会、関西電力(株)、滋賀県警察本部、長浜警察署、木之本警察署、滋賀県関係所属

5 訓練想定

- (1) 令和元年 11 月 16 日（土）午前 5 時に発生した若狭湾沖を震源とする地震により、運転中であつた関西電力(株)美浜発電所 3 号機が自動停止し、外部電源が喪失したことから警戒事態が発生。その後全交流電源が喪失し、施設敷地緊急事態に進展。さらに作動した非常用炉心冷却装置の故障により全面緊急事態に至り、炉心損傷により放射性物質が放出。
- (2) 令和元年 11 月 17 日（日）午前 7 時 30 分に、長浜市内の UPZ 内の一部地域（余呉小学校区）において、空間放射線量率 $20 \mu\text{Sv/h}$ を継続して観測したため、余呉小学校区に一時移転指示。

6 訓練項目

- (1) 屋内退避
防災行政無線、安全・安心メール、消防団広報を活用し、住民に屋内退避指示を伝達。住民は各自宅で屋内退避を実施。
- (2) 住民避難
 - ① IP 告知放送、消防団広報を活用し、住民に一時移転指示
 - ② 一時集合場所の設置・運営【写真①】
 - ③ 安定ヨウ素剤の配布・服用【写真②】
 - ④ バスによる住民避難
 - ⑤ 要配慮者の避難【写真③】
福祉施設に協力いただき、要配慮者のスクリーニング体制を確認
 - ⑥ 避難中継所(スクリーニング会場)の設置・運営

- ・避難中継所となった「湖北体育館」は平成 29 年度に訓練で使用。平成 29 年度の訓練で課題となった、人や車両の動線の変更を行った。【写真④、⑤、⑥、⑦、⑧】
- ・避難中継所運営本部の設置・運営【写真⑨】

⑦広域避難

- ・対象地域一部住民の市外（東近江市域）への避難を実施。

⑧原子力防災講習会（放射線の基礎知識と屋内退避、避難行動の説明）【写真⑩、⑪】

⑨原子力災害医療訓練

- ・長浜市立湖北病院にて原子力災害医療の実施【写真⑫】



写真①

旧鏡岡中学校 一時集合場所受付



写真②

余呉体育館 安定ヨウ素剤説明



写真③

湖北体育館 要配慮者のスクリーニング



写真④

湖北体育館 車両スクリーニング



写真⑤

湖北体育館 ゲート型モニタ汚染検査



写真⑥

湖北体育館 詳細汚染検査



写真⑦
湖北体育館 除染



写真⑧
湖北体育館 説明相談



写真⑨
湖北体育館 避難中継所運営本部



写真⑩
湖北文化ホール 市長・知事講評



写真⑪
湖北文化ホール 原子力防災講習会



写真⑫
湖北病院 原子力災害医療訓練

7 主な成果と課題

(1) 一時集合場所

【成果】

- ・訓練要員の服装は適切だった。
- ・住民の方も合羽などを着用しており、住民の服装も適切だった。

【課題】

- ・(原子力災害は他の災害と異なり、汚染検査が必要など、避難所に行くまでに行程が異なる。そのため、) 現在の地域の状況(空間放射線量率など)や、避難所に行くまでの行程(一時集合場所からバスに乗り、避難中継所に行き、汚染検査を受けた後、避難所へ行くなど)を住民に説明することが必要。(今回は講習会で説明を実施したが、災害時に講習会は実施しないため、その場で説明することが必要)
- ・安定ヨウ素剤や避難指示などについて、国からの指示があるとの説明であったが、抽象的な説明ではなく、どのような方法でどのような内容で伝えられるのかを説明すべき。

(2) 避難中継所

【成果】

- ・平成 29 年度の原子力防災訓練で課題として挙げられていたスクリーニング会場のレイアウトについては、レイアウトを変更したことで、人の動線をよりスムーズにすることができた。
- ・要配慮者の汚染検査手順を確認することができた。
- ・湖北文化ホールを住民の待機場所とすることで、住民の方の待機時間の快適性向上につながることができた。
- ・住民誘導が適切に行われており、スムーズにスクリーニングが実施されていた。

【課題】

- ・車両スクリーニングの動線を改善したものの、「スペースが狭い」との指摘もあり、多くの車両が湖北体育館に到着した場合の誘導方法や周辺道路の活用方法についても検討する必要がある。
- ・スクリーニング後、詳細検査や除染等により家族と離れることもあるため、スクリーニング会場（湖北体育館）に、家族が詳細検査や除染等を実施している間待機する場所を設ける必要がある。
- ・（住民は汚染検査を体験している人は少なく、ゲート型モニタを通過する理由など、不明な点も多いと考えられることから、）汚染検査の実施前に、汚染検査の手順やこの後の流れなどについて、住民に説明する必要がある。（今回は講習会で説明を実施したが、災害時には講習会ないため、その場で説明することが必要）

(3) その他

- ・バス集結場所に受付を設置することで、バスと添乗員のマッチングを円滑に行うことができ、またバスの運行管理も実施することができた。